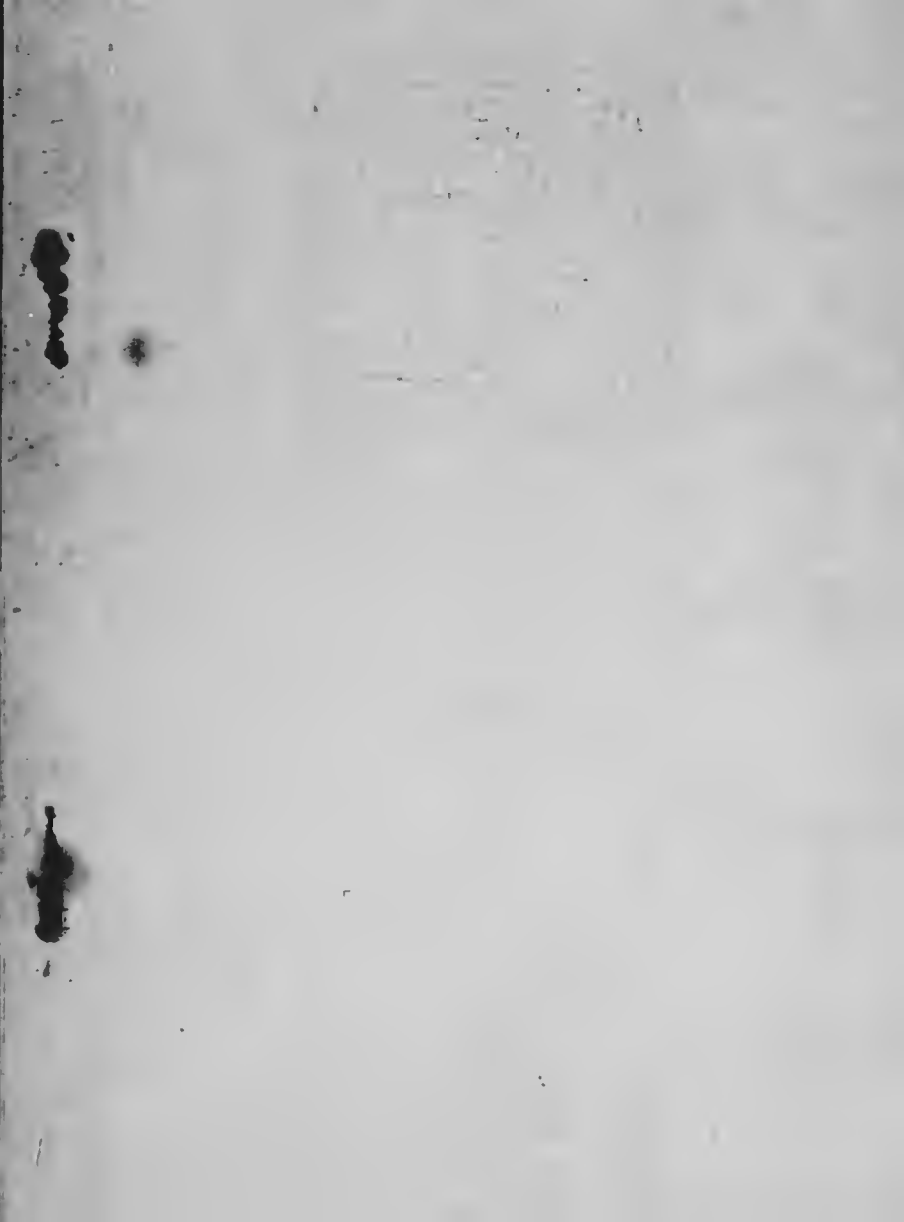


特 228

373

50
千徳山石雄著
ナチス政策綱領





千德岩雄著

大
手
又
政
策
綱
領

健康
日本
社





序

この小著は、今日、混沌の中に苦悶する、特に若き人々に献げられるものである。

「ヒットラー」「ナチス」に就いては、誰しも、何等かの知識を有つてゐる。著書も多い。

然し乍ら、ナチス・イデオロギーについては百の理論を通じて學ぶよりも、最も簡明直截に綱むためには二十五ヶ條の綱領をはじめナチスの諸政策を具體的に知ることが必要だ。

ヒットラーの生活記録は即ちナチス史であり、ナチスの政策、綱領は其のイデオロギーの最も雄辯な表現であるからだ。

この小著においては、一九三三年ヒットラー政權掌握までは、ヒットラーを主としつゝ、ナチスの發展及び政策を書き、その後においてはナチスの新らたなる政策と重要問題に力點を置いた。これによつて、最も端的にヒットラー及びナチスの全貌に就いて理解されることと思ふ。

昭和十二年五月

著者

目次

緒論

第一編 ドイツ國家社會主義勞働黨小史	(一一)
--------------------	------

A・「六人俱樂部」から「ナチス」まで	(一一)
--------------------	------

B・ナチス獨裁完成に至る十三ヶ年	(一三)
------------------	------

(附) ヒットラー略年表	(二二)
--------------	------

第二編 ナチスの理論と政策	(二六)
---------------	------

A・ナチスの指導理論	(二六)
------------	------

B・ナチスの政策・綱領	(三〇)
-------------	------

C・復興四ヶ年計畫	(三九)
-----------	------

D・一九三三年以後のナチス	(四四)
---------------	------

E・ナチス外交政策	(五三)
-----------	------

結語 ヒットラーと青年に就いて	(五八)
-----------------	------

ナチス政策綱領

千 徳 岩 雄

緒 論



鉤十字の旗印と共に、ナチスは今や世界の、地球の驚異の對象となつてゐる。「ヒットラー萬歳！」と叫ぶ嵐のやうな歡呼の聲が、世界の隅々にまで響き渡る。「ナチス」の名は、あたかも現代世界の「英雄」の別名の如くに、地上をまさしく席捲して仕舞つた。

一九三三年總選舉に於けるヒットラーの勝利は、その後のドイツの政治上の・社會上の・文化上の一切の權力を掌握し、今日に於いてはイタリー・ファシズムより以上に「ヒットラー・ファシズム」獨裁國として、世界にその覇を唱へるに至つた。

しかも、一九三三年におけるヒットラーの勝利は、一九一九年三月、ナチス——ドイツ國家社會主義労働黨の略稱——の結黨以來、わづかに十三ヶ年に過ぎないことである。この短日月にナチス獨裁政府を現出したことは、歴史的にも全く驚異に價ひすることだ。この奇蹟的とも稱すべきナチスの君臨は、いかにして成功したのであらうか。

我々は、此の小著において、指導者ヒットラーにつき、また、ナチスの全貌について明らかにすることは、充分を期し難いことであるが、然し、その意義、主張、その主要な發展過程の記録については、簡潔ではあるが、可能な限り正鵠に明示したい。

また、特記して置きたいことは、この書の主要なる目的において、ナチスが今日の勝利を獲得せる點の原動力が、現代ドイツ青年に據るものであることを知り、かつ、世界におけるあらゆる政治闘争・社會運動が如何に青年の覇氣ある「力」を必要とするかを、強調したいといふことである。謂ひ換へれば、時代を動かすものが「青年」であることを主張したいのである。ヤンガー・ゼネエレーションこそ、人類歴史の進展にとつて缺ぐ可からざる原動

力たることを明瞭に表示したいのである。我々は、ヒットラーの逞ましき氣魄の裡に時代の「青年」を発見することが出来、ナチスの激しい政治闘争の中に、亦、時代の「青年達」の精神を觀取し得るのである。

「未來を信ぜよ、我々は必ず勝利の榮冠を獲るのだ」といふナチスの精神——ドイツ國家社會主義勞働黨の十戒——は、かゝる國家主義とは全く對蹠的な政治的立場にあつたかのレーニンの「未來は青年のものである」といふ力強い言葉と共に、それは屈伏を知らぬ「青年」の闘志であり、燃ゆる希望・搖ぎなき意志である。

敏活に！ 獵犬の如く

強靱に！ 革の如く

堅固に！ 鋼鐵の如く——

ヒットラーの「嵐の分隊」と呼ばれる突撃隊のこの果敢なスローガンは新しき時代の「青年」の、屈辱を知らぬ力強き合言葉なのである。

この「青年」の力なくして、いかなる時代の闘争も有り得なかつた。若し、有るとしてもそれは、勝利することのなかつた、敗北の闘ひであつた。過去の歴史がそのことを證左する我々は、ヒットラーの勝利の中にも、この「青年」の力の眞理を指摘し、その時代的意義をば、明確に認識したいと惟ふのである。只、この「青年」主義が、正しい主義、主張、眞理と正義のために行動する時にのみ、我々はその秀れたる功蹟と眞價をば認め、それを賞揚したいのである。批判なき誤れる「青年」の運動は、また、その正反對に、人類の敵ともなからである。正しい「青年の力」こそ、如何なる巨大な敵とも闘ひ得る―そして、そこにこそ、眞の勝利は約束されてゐるのである。

今、この書の本文に入る前に、ウキンにおいて、何故にヒットラーの國粹主義運動が勝利するに到つたかの理由を若干明らかにしておく必要があると思ふので、ナチスが出現するに到つたところの、ドイツの社會的政治的情勢に就いて一言し、ヒットラーが一世の風雲兒、一代の英雄であるといふ俗説的批判よりも、ヒットラー勝利の必然性を糾明しておきたい。

その歴史的・社會的意義の深きを認むるからである。

ヒットラーは、その著「我が闘争」の中で記して居るやうに、彼は青年の頃には、美術家たることを志してゐた。この若き藝術家志望者が、いかなる理由によつてドイツ民族の輝ける指導者となつたのであらうか？ 我々は、若き藝術家ヒットラーをして、政治闘争に驅り立てたドイツの社會情勢について考へてみなければならぬ——。

かの世界大戦は、それに参加した各國の情勢を一變せしめた。その最も顯著な變化をなしたのが敗戦國ドイツであつた。

敗戦國としてのドイツの頭上にのしかゝつたヤング案——賠償法案——は、ドイツをして世界列強の奴隸的立場へと失墜せしめた。國際平和會議は、ドイツを全く去勢して仕舞つた。その一方ユダヤ民族の新たな勢力が擡頭し、疲弊困憊せるドイツの經濟的實權をすら掌握しかねまじき有様となつた。ヒットラーは、ドイツにおける共產主義運動を、ユダヤ民族の陰謀であると斷じた。

事實、ユダヤ民族の陰謀ではないにしても、敗戦國ドイツは、著しい勢力を有つ共產主義者の支配下におかれてゐた時期もあつた。それは、今にも、ソヴェート・ドイツを實現せんとするが如き状態とさへなつた。短期間であつたにせよ、バイエルンにおけるソヴェート政府の樹立は、國家主義者達を恐怖せしむるに充分であつた。一九一八年、カイゼルの退位後ドイツには共和制が行はれたが、然し尙、左翼・右翼の對立は激烈なものであつた。國內的のかゝる混亂に對して、對外的にはヴェルサイユ條約がドイツを苦しめた。

正に、内憂外患の状態におかれたのだ。

ドイツの民衆は疲弊困憊の眞只中におかれた。文字通りの國難であつた。斯くの如き状態は、一層共產主義對國家主義の對立を激化せしめた。

そして、ヒットラーは、この國粹主義・國家主義的運動の輝ける指導者として現はれたのであつた。時代的混迷期にあつたドイツ民衆の前に、ヒットラーは獅子吼した――。

「失はれたるドイツの國粹精神を奪還せよ！ ユダヤ民族と共產主義者の陰謀より脱出せよ！ 祖國ドイツを愛する精神の昂揚こそ、今日のドイツ國民を光明へと導くであらう。……

國家觀念の缺除、この根本精神の忘却が、ドイツの歴史を屈辱の頁に書き換へたのだ……われわれの祖國ドイツは、ブルジョアでもなく、プロレタリアでもなく、實にドイツ國民たることを欲する人々によつてのみ組織されなければならない……。

卅の旗印は、國家社會主義者たるわれわれの綱領を象徵化してゐる。即ち、赤はわれわれの運動の社會的思想を、白は國家社會主義を、然して、ハーゲンクロイツ（卅）こそは、フリアのために闘争すべき任務を……」

かくて、ハーゲンクロイツの旗印が、疲れ混迷せるドイツ民衆の頭上に、更生を約束する救ひの神の如くにへんぽんと翻りはじめたのである。

第一編 ドイツ 國家社會主義勞働黨小史

A 「六人俱樂部」から「ナチス」まで

世界大戰後、ドイツは帝政の顛落と共に、共和制の成立を見、一方にはリープクネヒト等

を中心とする共產主義運動が勢力を占め、一九一九年春、アイスナ及びトルラーはベルリン政府に對し、ソヴェート制實施の宣言するやうな状態であつた。その頃、ヒットラーは一兵士として、リーブクネヒト等の實權下にあるミュンヘンの聯隊補充部隊に編入されてゐたがこのソヴェート制實施の宣言に對し斷固反對の意志表示をした爲めに共產黨中央委員會から睨まれ、身邊危機に瀕したりした。その後、ソヴェート政權の倒壊となつて、再びミュンヘンは共和黨の支配下におかれることになつた。

鍛冶職のアントン・ドレツクスラアを指導者とするいわゆる「六人俱樂部」は、革命的風雲の急であつた一九一九年の春、ミュンヘンに組織されたのであつた。メンバーは、すべて國粹主義を信奉する六名の勞働者。

この「六人俱樂部」の主義・主張に共鳴したヒットラーが、第七人目の同志として加盟したのは同年の秋九月であつた。それと同時に、それは「ドイツ勞働黨」と改稱された。

一兵卒に過ぎなかつたアドルフ・ヒットラーが行き詰まれるドイツの前途を背負ふべく最初の出發であつた。

その翌年、一九二〇生——の二月二十四日、ミュンヘンにおいて開催された第一回民衆大會こそ、今日ドイツの絶對的獨裁者となつた「ナチス」の生れた記念すべき大會であつた。（然し、この記念すべき會合に出席したものは、僅かに百名ほどに過ぎなかつた。）

ナチスの有名なる綱領二十五ヶ條もこの大會の席上において發表されたものである。そして、かの卅——ハーゲンクロイツの黨旗は、同年の夏、創られたものであるが、これを社會的に正式に公表したのは、その翌二年一月、ミュンヘンにおける第一回黨大會においてであつた。

かくてナチス——ドイツ國家社會主義労働黨——は、ヒットラーをその指導者として、ここに活潑なる運動を展開して行く——。

B ナチス獨裁完成に至る十三ヶ年

共產主義の撲滅。

ユダヤ人排撃。

一切の非ドイツ的なるものに對する闘争。

ヴェルサイユ條約の破棄。

ヒットラーの主要な政治的主張はこれである。そして、彼は、その成功と共に「第三帝國」實現の夢をみる。ヒットラーのいふ第三帝國とは何を意味するか？ それは――

第一帝國 ナポレオンによつて破壊されたゲルマン民族の所謂「神聖ローマ帝國」

第二帝國 それ以後、一九一八年十一月革命によつて、共和制國となるまでのドイツ帝國
然して、ドイツが共和國となつたのは、ヴェルサイユ條約の宣言によるものであるが故に、彼ヒットラーは右條約を頑強に否定し去らうとするのである。

第三帝國 これこそ、彼ヒットラーの理想帝國である。即ち、彼によれば、ドイツ民族の最後の、そして永遠の帝國といふのである。

ナチスは、ヒットラーのかゝる政治目的を徹底的に強硬な手段で實現せんとした。目的の

爲には、いかなる非常手段をも辭さないのである。「暴力に對しては暴力を以つて應へよ」とヒットラーと叫ぶ。

特にその間にあつても、ナチスと對立的に勢力を揮つてゐた共產黨に對するヒットラーの鬭争は、最も激しいものであつた。また、共產黨に限らず、あらゆる反對黨に對しても猛烈な鬭争を行つた。その反對に、反對黨がナチスに對する壓迫抗爭も強力であつた。ヒットラーはそうした反對黨に對する防衛と鬭争を目的として、所謂「嵐の分隊」と呼ばれる「突隊」を組織したのであつた。

この突隊は、共產黨の集會を襲撃したり、反對黨團體と流血の衝突を惹起したり、激越なテロ的行動をとつた。そうした流血事件の中でも、一九二三年五月一日の共產黨指導によるメーデー示威行進に對して、ヒットラーが突隊の大分列式を行ひ、メーデー行進を襲撃防害して、双方多數の死傷者を出した慘事は有名である。

一九二三年十一月のドイツ革命五週年記念の前日、ミュンヘンにおいて反共產主義市民大會が開かれたが、その席上、ヒットラーは「ドイツ國民政府」樹立の宣言を發した。これが

ヒットラーが投獄されるに至つた所謂ナチスのミュンヘン一揆と呼ばれるものである。

このために、ナチスの本部は弾壓をうけ、その機関誌は發行禁止を命ぜられた。

このミュンヘン一揆は「ドイツ國民政府」の宣言をすることによつて、一時的成功をみたが仲間の裏切り・變節のために情勢一變し、當夜の、突撃隊の示威行進は警官隊によつて破壊され、ハーゲンクロイツの黨旗は犠牲者の血に染められた。この時「六人俱樂部」時代の指導者であつた鍛冶職のアントン・ドレツクスラアはじめ多くのナチス黨員は捕へられ銃殺された。

この十一月八日「ミュンヘン一揆」こそ、ナチスの歴史にとつて記念すべき日であらう。ヒットラーも、この時身をもつて逃れたが、それより四日後の十一日遂に逮捕された。ヒットラーの投獄によつて、ナチスは殆ど潰滅したといつていゝ位の状態となつて仕舞つた。(ヒットラーの自傳著書「我が闘争」はこの事件の獄中で書かれたものである)

一九二四年、十二月ヒットラーは五ヶ年禁錮の刑を約一ヶ年勤めたゞけでバイエルン政府の特赦によつて出獄した。出獄したヒットラーは直に黨再建に努力した。

ヒットラーはあらゆる機會においてその國粹主義思想を強調した。青年達に熱烈なアツピールを送つた。十人から百人、千人から萬人とナチスは黨員を増大し、また「嵐の分隊」も再組織された。だが、ミュンヘン一揆の失敗に鑑み、ヒットラーはそれ以後「合法的」鬭争の舞臺を議會へと向けた。

ヒットラーの出獄後三年、一九二八年五月のドイツ總選舉において、ナチスは八〇九〇〇〇票を一舉に獲得し、十二の議席を占めることができた。これが、ナチスの議會鬭争の第一發であつた。

この僅か十二の議席しか有たなかつたナチスが、一九三〇年の總選舉には一〇七名の代表者を送り、一九三二年の大統領選舉にはヒットラーも出馬してゐる。その決戦の結果は、

ヒンデンブルグ 一九、三六七、六八八

ヒットラー 一三、四一九、六〇三

テールマン(共產黨首領) 三、七〇五、八八九

大統領は遂にヒンデンブルグ將軍となつたが、それにしてもヒットラーの勢力は全く驚く

べきものがある。

そして、一九三三年一月三十日、シライヘル内閣の總辭職後、ヒットラー内閣が實現したそれと同時に議會を解散し、ヒットラーに次のやうな政治的意見の聲明を行ひ、新政府の信認を國民に問ふと宣揚した。即ち、農民救済、失業救済の二つを主とする「四ヶ年計畫」がそれである。

また、その一方總選舉を前にして、ヒットラー政府は共產黨に對する猛烈な攻撃と彈壓を強行した。それは共產陣營に對するのみでなく、一切の反ヒットラー政府黨に向つて苛藉なく行はれた。二月七日には、大統領緊急令を發して、新聞・雜誌の言論に徹底的彈壓を加へそのために共產黨および反對黨系の言論機關は、發行禁止處分が續出した。

興味ある問題として、世界の視聽を集注してゐる「ベルリン國會議事堂放火事件」もこのナチスの彈壓強行の最中に發生したのであつた。ヒットラー政府の公表するところによれば和蘭の一共産黨員が議事堂に火を放つたのだと謂ひ、それを導火線として、共產黨に對する大彈壓を開始した。（このベルリン國會議事堂放火事件に對して、科學界の巨人アインスタ

イン博士、物理學の世界的權威ボール・ランジュバンを名譽總裁とするヒットラー・フアシ
 ズム犠牲者國際救援委員會が結成され、放火犯人を共產黨員であるといふのはナチスの捏造
 であつて、その眞犯人はナチス自身であり、この事件を口實として左翼への未曾有の彈壓を
 行ひ、ナチス獨裁の目的を遂行しやうと策謀したものであると猛烈な抗議運動を捲き起した
 この事件の發生と共に、ナチス突撃隊は共產黨本部を襲撃して銃火を交へ双方多くの死傷
 者を出したのみならず、共產黨首領テールマン以下多くの指導者が投獄され、その機關紙は
 發行不能となつた。かくて、三月五日總選舉の日には、ナチスは事實上、クーデターを行ひ
 この物々しい戒嚴令下において國民は投票したのであつた。その結果

(政府黨)		(反政府黨)	
ナチス	二八八名	社會民主黨	一一九名
國權黨	五二名	共產黨	八一名
人民黨	七名	その他	九四名
計	三四七名	計	二九四名

果然、ナチスは勝利した。また、プロシヤにおいても、ヒットラー政府の勝利となつた。そして、この勝利によつて、ヒットラーはかつてドイツにおける如何なる大政治家もが實現し得なかつた國家行政機能の中央集權を掌握したのである。これ以後、世男的センセーシヨンを惹起したユダヤ人排撃、所謂非ドメツ的文化の破壊等々の思ひ切つた政策が實施された。「ハイル・ヒットラー」の呼び聲が全ドイツを嵐のやうに吹き捲くつた。ハーゲンクロイツの旗を先頭に、ヒットラーは彼の「夢」第三帝國實現の途へと驀進した。

九月十三日——ナチスは遂にその希める段階にまで到達したのであつた。即ちこの日の總選舉において、ナチスは國會の全議席を占有し、こゝにヒットラー獨裁の完成を示したのである。それは次のやうな壓倒的な記録によつて實現した。

【國會議員選舉結果】

投票總數

四二、九七五、〇〇九

ナチス投票

三九、六二六、六四七

非ナチス得票

無

無効投票

三、三四八、三六二

【政府信任人民投票結果】

投票總數

四三、四三九、〇四六

信任賛成投票

四〇、五八八、八〇四

信任反對投票

一、一〇〇、一八一

無効投票

七五〇、〇六一

この結果が、ナチス所屬議員六六〇名（三月選挙の時には二八八名）となり、こゝに全くナチス獨裁が實現したわけである。

ナチス結黨以來、僅かに十三ヶ年、まさに驚異的記録である。

〔附〕 ヒットラー略年表

（一八八九年四月二十日） バイエルンとオーストリアの國境近いブルウナウといふ所に一税關吏の長男として生れた。

(一九〇二年) その父死去す。ヒットラーもまた病氣の故をもつて、それまで學んでゐたリンツ市の實科學校を退學。それより美術家たらんことを志す。

(一九〇五年) その母も亦病死す。美術家を志せる彼は、ウィーンに旅立ち、美術學校の試験を受け失敗。後、工業學校に入らんとしたが、資格なき爲め斷念。

爾後、五ケ年間のヒットラーの生活は、勞働と勉學の苦難に満ちたものであつた。そしてこの間、ヒットラーはウィーンにおける不安な社會狀態、不合理な社會制度に對して漸く社會的意識を覺え、それは更に階級意識へと驅り立てられて行つた。彼がマルキシズムを一時にしてその思想の對象としたことは注目に價ひすることだ。これは勿論、彼が當時一緒に働いてゐた仲間の勞働者達から影響されたのであつた。然し乍ら、ヒットラーは自ら告白してゐる如く、決して眞のマルキストになり得ない許りかそうした社會主義的文獻を讀破して行けば行くほど反對に「本能的」な愛國的精神が彼を囚へたのだつた。階級對立の觀念を掲棄して、民族的國粹主義的觀念へとヒットラーは強く引きずられて行つた。だが、そこには何等の科學的根據もなく、また理論もなかつた。

(一九〇九年——一九一二年) ヒットラーは更に社會問題への關心を高め、研究へと没頭した。こうした社會問題・政治問題に對する研究の一方にはまた、彼が少年の頃よりの志であつた美術への希求も捨て去ることができず、彫刻家たるべき精進に努めてゐたのだつた。

(一九一二年) 彼は自ら呼稱する「眞にドイツ的都會」であるミュンヘンに來たるや、彫刻家としての腕を本格的に磨きはじめた。それより二年間の彼の生活は彼の生涯において最も平穩無事な愉しいものであつたと、彼はその著「我が闘争」の中でも述懐してゐる。

(一九一四年) この年、勃發せる世界大戰參加の動員令がヒットラーを戦線へと送つた。彼は、眞のドイツ國民としての愛國的精神に燃へて銃をとり、聯合軍と闘つた。

(一九一六年) 秋リスト聯隊附であつたヒットラーはソンヌ戰役において重傷し、ベリッツ衛戍病院に療養す。

(一九一七年) 全快したヒットラーは再びミュンヘン補充部隊に編入、戦線に活躍。

(一九一八年十月) イーゼル河畔の戦闘において毒ガスのために失明に瀕するほどの重態となり、パウゼワルク衛戍病院に收容さる。その翌月、國內に革命起り、帝政の失墜と同時に

に共和制が確立した。この事を病臥中に聞き知つたヒットラーは、四ケ年間の戦争の惨禍の代償がかくの如きものであつたのかと、憤激す。彼が爾後、政治家として起つべく決心した動機は實にこの時にあつた。

(同年十一月) 全癒したヒットラーはミュンヘンに歸り、そこの聯隊補充部隊に編入されたが、ミュンヘンはその時既にかの有名なる共產主義者リーブクネヒト等の勢力下であり、ヒットラーはそれに對して、全く不滿に堪へなかつた。

(一九一九年四月) ミュンヘンにおいて、共產主義者達は、ソヴェート共和制の實施を宣言した兵舎にあつたヒットラーはこれに對し、猛烈なる反對意志表示をなし、ために彼に身邊危険となつたが、間もなくソヴェート權力の倒壊によつて共和黨治下となり、ヒットラーは革命審問委員となる。

(同年九月) 「六人俱樂部」に加盟、同時に「ドイツ労働黨」と改稱された。これがヒットラーの政治的進出の第一歩であつた。

(一九二〇年二月二十四日) ミュンヘンにおいて「ドイツ労働黨」主催の第一回民衆大會

が開かれ、席上「ドイツ國家社會主義勞働黨」(ナチス)と改稱、ヒットラーその黨首となるこの時、ナチス綱領二十五ヶ條を發表。

(一九二三年十一月八日) いわゆる「ミュンヘン一擧」として有名なこの日、ヒットラーは自らピストルを手にして起ち上つた。

(同年同月十一日) ミュンヘン一擧による一時的成功によつて「ドイツ國民政府」樹立を宣言したヒットラーは、事破るゝに及んで逃亡したが、この日、ウウフキングで逮捕、投獄さる。

(一九二三年十一月) ミュンヘン陸軍學校における公判において禁錮五ヶ年、の宣告を受け、ランズベルグ刑務所に下獄す。判決言渡さる。彼の著書「我が闘争」はこのミュンヘン一擧の獄中にあつた時、書かれたものである。

(一九二四年十二月二十五日) クリスマスの日バイエルン政府の特赦によつて釋放さる。

(一九二八年五月) 總選舉においてナチスは十二名の議員を獲得した。ヒットラーはこゝに「合法的」「議會闘争主義」の第一步を踏みしめた。

(一九三二年) ヒットラーは大統領選挙に出馬したが、第一位ヒンデンブルグ、第二位ヒットラー、第三位テールマンで敗る。

(一九三三年一月三十日) ヒンデンブルグ大統領より首相を任命され、ヒットラー内閣實現す。

(同年三月) ヒットラーは議會を解散し、事實上クーデター(武力行爲)を行ひ、ドイツ政權を全くその掌中に收む。

(一九三三年九月) 總選挙においてヒットラー大勝。ナチス獨裁、こゝに完成す。

第二編 ナチスの理論と政策

A ナチスの指導理論

ナチス精神の根本的な意義は、それが共產主義思想と決定的な對立をなしてゐるところのものである。新たな社會建設を目的とせることにおいては、國粹精神の昂揚に努めて所謂

「第三帝國」——前揚「ナチス獨裁完成に至る十三ヶ年」の項參照——の建設を行はんとするヒットラーは、階級闘争を認めない。共產主義的見地に立つに對し、彼は各民族・各國家の特殊性を強調する。この彼の思想は次のやうな短い彼自身の言葉の中に表現されてゐる。「ブルジョアでもない。プロレタリアでもない。實にドイツ人たることを希ふ人々によつてのみ、われわれのドイツ國家が組織されなければならない！」

こゝにドイツ民族のための國粹主義的精神が強調されてゐる。共產主義者に對する闘争の宣言がある。また、ドイツ民族でないユダヤ民族に對する排撃的な態度が示されてゐる。

x

x

世界大戰後、敗戰國としてのドイツ國の頭上にのしかゝつた重壓は、かのヤング賠償法案であつた。これをヒットラーは、ドイツの奴隸的立場への失墜であり、それと同時に現象されたのが、平和主義・國際主義であり、そしてそれは次第にドイツ魂の喪失となり、今日の疲弊困憊にまで押しつめられて仕舞つたと論じてゐる。

ドイツ民族の、ドイツ的精神、國粹意識の缺除は、ドイツの將來を暗澹たる深淵にまで陷

入れんとしてゐる。ユダヤ民族の陰謀を見よ！ 共產主義者の破壊的跳梁を見よ！ 然してドイツの國際的地位における屈辱とは、ドイツの今後を全く苦難に滿たちものとしてゐる。とヒットラーは説く。

ドイツ民族の輝かしい獨立と自由の獲得のためには、ドイツの國粹意識の下に團結するところが絶対に必要である。國粹精神こそドイツの將來に甦生を約束するところの唯一の力である。あらゆる國家の歴史において、國粹觀念と一致團結の精神を有せざる國家に成功せるころはない。また、民族の歴史においても同様であるとヒットラーは指摘する。

更に、彼はその思惟を押進めていふ。

——ドイツにおけるこの國粹主義的イデオロギイの缺除が、ドイツの歴史をして屈辱の歴史・奴隸の歴史に變じて仕舞つた。全ドイツ民族の國粹意識の覺醒によつて、ドイツ帝國の公敵と闘へ！ 即ち、共產主義者共に向つて。ユダヤ人に對して。また、

ヒットラーの見解に據れば、その國粹主義運動も、ドイツ國における國家的・社會的特殊性及び客觀的な諸條件に基礎づけられてゐるといふのである。即ちその主要な由因としては

一九二九年における世界經濟の大恐慌が、世界各國中、最も疲弊せるドイツに與へた打撃は全く致命的なものであつた。四百萬を超過する失業者、銀行閉鎖、諸企業の崩壊——等々ドイツは暗澹たる狀態に置かれた。かゝる經濟恐慌による困亂は、更に、社會的・政治的困亂を生じて行つた。ブルジョア自身を受けた打撃は甚大ではあつたが、尙かつ外國ブルジョアジイとの提携・策動等の手段によつて、搾取階級としての地歩を保ち得てゐた。このブルジョアジイの繁榮のための犠牲となつたのが労働者・農民および一切の無産階級であつた。かくの如き不合理なる狀態を前にして政黨政治家達は、政權把握の欲望にのみ囚はれてゐた。そこでナチスは次のやうな意味の批判を行つてゐる。

「ドイツにおける今日の社會的混迷は、ドイツ民族としての國粹意識の喪失にその淵源を置き、又ドイツの既成諸政黨の私利私欲に直接の原因を置いてゐる。ドイツに與へられた一切の外交的恥辱と、ドイツにおける總ての經濟的恐慌とは、全くドイツ國粹意識を忘却して私欲にのみ狂奔せる既成諸政黨の責任と謂はねばならぬ。然かも彼等には今日のドイツを苦難から救ひ出す何等の力を有たない。彼等は餘りに無力である。」

そして、ドイツのこの危機を救ひ得るところのものは、唯一つの國家的政黨たる「ナチス」のみであると謂ふ。國家の秩序を護るために忠實なる兵卒として起ち、儼然として規律ある統制へと復興させると宣揚する。

また、ナチスは、ドイツ國家の安寧秩序とドイツ的文化の擁護を行ひ、一般勤勞者の勞働力を尊重し、かの貪慾なる少數ユダヤ系財閥の資本集中主義を排撃すると主張するのである。ナチスの指導的理論は、根本的な原理としては、以上の如きものであるが、それが、政治的狀勢に應じて政策を次々に變更し發展せしめてゐる。「政治は力也」といふ言葉がヒットラーの場合にも適してゐることは、恒にヒットラーの進む背後にはドイツの青年達が、隨行してゐるのを見てゐることである。ナチスの指導理論のもつ内容的な迫力よりも、それを生かして使ふるヒットラーの、ナチス指導者達の「青年」的氣魄が、ドイツの熱血的青年達に力強くアツピールするのである。

B ナチスの政策綱領

ナチスの指導理論について、單に理論的な點のみを摘出して見るよりも、寧ろ端的簡明にその行はんとする政策と指導的理論の根幹をば示標してゐるナチスの二十五ヶ條に互る綱領について考察することの方が遙かにナチスの精神乃至その抱負を明確に、かつ要を得て理解することができると思ふ。

この二十五ヶ條に互るナチス綱領は、一九二〇年二月二十四日、ミュンヘンにおける第一回民衆大會（前掲「ドイツ國家社會主義勞働黨小史」参照）において、それまで「ドイツ勞働黨」と稱しそれを現在のナチス——ドイツ國家社會主義勞働黨——と改稱すると同時にその席上においてナチス黨綱領として天下にこれを發表し、ドイツ國內およびヨオロッパの一部諸國に大きなセンセイションを喚起したところのものである。

ドイツ國家社會主義勞働黨政策綱領

我々ノ政策綱領ハ次ノ如クデアル。

第一條 我々ハドイツ民族ノ自主權ニ基キ、全ドイツ民族ガ大ドイツ下ニ結合センコトヲ要

求ス

第二條

我々ハ他國民ニ對シ、ドイツ國民モ亦同等ナル權利ヲ要求シ、ベルサイユ及ビサン
セルマン兩平和條約ノ廢棄ヲ要求ス

第三條

我々ハドイツ國民ノ生存ト過剩住民ノ移住トノタメニ必要ナル領土及ビ殖民地ノ占
有ヲ要求ス

第四條

公民權ノ所有ハドイツ國民タリ得ルモノノミトス。而シテ國民タリ得ルモノハ信教
ノ如何ヲ問ハズドイツ民族ノミトス。故ニドイツ血族ニ非ラザルユダヤ民族ハ公民
權ヲ有セズ

第五條

公民權ヲ有セザル者ハ單ニ滞在客トシテドイツ國內に居住シ得ルニ過ギズ。從ツテ
外國人トシテ、特別法律ノ適用ヲ受クル義務アルモノトス。

第六條

國民ハ行政・立法ノ決議權ハ國民ノミ之ヲ有ス。故ニ我々ハ總テノ公的事務ハソノ
性質ノ如何ヲ問ハズ國家及ビ聯邦市町村タルヲ論ゼズドイツ國民ニヨツテ充任サル
ベキヲ要求ス

第七條 我々ハ國家ガドイツ國民ノ職業ト生活ヲ保證スベキコトヲ要求ス。國民ガ全國民ノ

生活保證困難ナル場合ハ、他國民ニシテ生計費ヲ必要スルモノヲ國外追放トナスベ

キコト

第八條 ドイツ國民ナラザルモノノ移住ハ今後之ヲ禁止ス。尙、一九一四年八月二日以後ニ

於テドイツニ移住セル非ドイツ民族ニ對シテハ國外退去ヲ要求ス

第九條 國民ハ總テ同等ナル權利・義務ヲ有スベキモノトス

第十條 國民ノ第一ノ義務ハ身心ノ訓練ニアリ、故ニ各個人ノ行動ハ集團の生活ニ基準シ、

全民衆ノ公益ノタメニ盡スヲ目的トス。社會的利益ニ反スルハ斷ジテ許容セズ。此

ノ理由ニヨリ我々ハ次ノ如キ條項ヲ要求ス。

第十一條 勤勞ニ依ラザル所得ヲ禁止シ、歩合及び利子ノ奴隸ヲ廢棄スベキコトヲ要求ス。

第十二條 戰爭ハ國民ノ財産生命ニ莫大ノ犠牲ヲ拂ハシムルモノナルニ拘ラズ、戰爭ニヨツ

テ個人的ノ巨利ヲ得ルハ、國民ニ對スル犯罪ト認ム。此ノ故ニ、我々ハ戰爭ニ於ケ

ル一切ノ利潤ハ、コレヲ沒收スベキコトヲ要求ス。

第十三條 我々ハ從來、行ハレタルトラストノ國有化ヲ要求ス。

第十四條 大企業ニヨル利潤ノ分配ヲ我々ハ要求ス。

第十五條 我々ハ養老保險ノ擴張充實ヲ要求ス。

第十六條 マルキシズムハ中産階級ノ崩壊ヲ以ツテ「自然ノ法則」(必然)ナリトスルモ、我ハ是レノ反對ニ、健實ナル中産階級ヲ形成セシメ、ソレノ維持ヲ要求スルモノナリ。我々ハ急速ニ百貨店ヲバ、小營業者ニ對シテ低廉ニ貸與センコトヲ主張ス。我ハ國家・聯邦・市町村ノ物件購入ニ對シテハ、小營業者ニソノ優先權ヲ與フベキコトヲ要求ス。

第十七條 我々ハ國民主義ヲ基礎トシテ、共同ノ利益ヲ主眼トスル土地ノ無償沒收ニ關スル土地法ノ制定、地代ノ廢止、及び不動産ノ投機的賣買ノ禁止ヲ要求ス。

第十八條 我々ハ共同ノ利益ノ妨害ニ對シテ徹底的ナル排撃ヲ要求ス。大衆ノ公益ヲ破壊スル犯罪者・奸商・高利貸ニ對シテハ、其ノ人種・宗教ノ如何ヲ問ハズ極刑ヲ以ツテ臨ムベシ。

第十九條 我々ハ唯物論的世界統制ニ加擔セルローマ法ノ改補ヲ要求ス。

第二十條 有能ニシテ勤勉ナルドイツ人ニ高度ノ教養ヲ與ヘ、指導的地位ニ向上セシムル爲ニ國民教育制度ノ根本的改革ヲ圖ルベシ。一切ノ教育機關ヲ原則トシテ、實生活ノ要求ニ應ジ、マタ國家觀念ノ培養ハ教育ノ最初ニ爲スベシ。我々ハ貧困ナル子弟ノ教育ハ國費ヲ以テシ、特ニ精神教育ノ施行ヲ要求ス。

第二十一條 國家ハ母親及ビ幼兒ノ保護ヲナシ、未丁年者ノ勞働禁止、法規ヲ以テ體育場ノ設置及ビスポーツヲ行フ義務ヲ制定シ、健全ナル青年教育ヲナス諸團體ニ對スル援助ヲ行ヒ、以ツテ國民ノ健康ノ増大ヲ圖ルベシ。

第二十二條 我々ハ職業的軍隊ヲ廢止シ、國民軍ノ創設ヲ要求ス。

第二十三條 我々ハ政治的虛構ノ言動及ビ其レノ新聞紙等ニヨル宣傳ニ對シテ鬭爭ス。ドイツ新聞紙ノ發行ニ關シテ、次ノ條件ヲ主張ス。

(イ) ドイツ語新聞紙ノ編輯者及ビ其ノ協働者ハ總テドイツ人タルコトヲ要ス。

(ロ) ドイツ語以外ノ新聞紙發行ハ國家ノ許可ヲ受クベシ。

(ハ) 非ドイツ人ニシテ、ドイツ新聞ト財政的關係ヲ有シ、又ハ其ノ事業ニ對シ干涉スルコトハ法ヲ以テ禁ズ。是レニ違反スル場合ハ該新聞紙ノ發行ヲ禁止シ、尙、其ノ關係者タル非ドイツ人ニ對シテハ、即時國家追放トナスベシ

共同ノ利益ヲ害スル新聞紙ハ發行ヲ禁止ス。我々ハ國家的立場ヨリ、有害ナル藝術及ビ文學ヲ排撃シ、且ツ以上ノ主旨ニ反スル一切ノ出版物及ビ觀覽興行物ノ禁止ヲ要求ス。

第二十四條 我々ハ宗教ノ自由ヲ主張ス。但シ國家觀念ニ悖ラズ、又、ドイツ民族ノ道德觀ニ反セザルヲ條件トス。

我ガ黨ハ宗派トハ無關係ニキリスト教ヲ以ツテソノ立場トス。我々ハユダヤ的唯物主義思想ヲ排撃ス。我々ハ公益テ以ツテ第一義トシ、私益ヲ最後トナスニ非ラザレバ國家ノ改善ハ、我ガ國民ノ永久ニ期シ難キコトナリト信ズ。

第二十五條 以上ノ各項ヲ實現スル爲メニ我々ハ強力ナル中央權力機關ノ確立・及び國家全體ニ對スル政治的中央機關ノ絕對權力ヲ要求ス。國家ニ依リ制定サレタル一般法律

ヲ各聯邦ニ適用スベク議會ト、職業階級ノ代表者會議ノ確立ヲ要求ス。

我が黨ハ右政策綱領ノ實踐ノ爲メニハ、生命ヲモ惜マザルモノトス。

此處ニ宣言ス。

一九二〇年二月二十四日

於ミュンヘン

ドイツ國家社會主義勞動黨第二回全國大會

右に掲げたナチス綱領の中にナチスの重要な政策は表明されてゐるが、この外に一九三〇年に發表せる農業政策綱領と併せて、次にその要點を摘記してみると――

第一、私有財産制の原則的承認（このことは綱領第十一および十三、十七各條を照應すれば明白である。）

第二、不勞所得の廢止

第三、失業對策

第四、利子奴隸制の廢棄

第五、獨占企業の國家所有（綱領第十三條參照）

第六、大規模企業の利益分配（同第十四條參照）

第七、中小商工營業者の保護（同第十六條參照）

第八、農業の改革（この事は一九三〇年發表の農業綱領五ヶ條において農業に關する改革事項を舉示してゐるが、その根本的なものとして土地改革に就き次の様な要求項目をその第三條に揚げてゐる。

一、外國人の土地所有禁止

二、土地相續權の承認

三、土地獨占及び土地投機の禁止

四、中小農の保護

五、土地分割および土地擔保權設定の禁止

六、荒蕪地、殊に東部大農地方における移住の獎勵

更に、農民の經濟的・文化的向上に關しては其の第四條において、租税の輕減・利子の引下げ・保類關稅の創設・農產物輸入統制・出荷組合の創設・農業勞働者の保護・住宅の改善農村寄宿舎・農業専門學校の開設等の具體的諸事項を示してゐる。

大體、以上の諸政策に明示されてゐるが如く「經濟の目的が個人をして最大の利潤を獲得せしめるのでなく、國民全體の需要を充足せしめる」ものである事を理解できる。即ちナチスにあつては經濟の計畫的な統制と自給自足とがその經濟政策における重要な歸結である。

C 復興四ヶ年計畫

ナチスはその結成以來、前掲の如き諸政策綱領に従ひ、かつその強調に努めて來たが一九三三年二月ヒットラーを首相とする所謂「聯立内閣」(「ナチス黨小史」参照)の組閣と共に、矢繼ぎ早に復興四ヶ年計畫なるものを發表、大要次の如き聲明をなした。

「内治外交上の裏切りによつて我々の過去の財寶が破壊され、國家の名譽と自由とが奪はれ、一切のものが失はれて以來、既に十四年が經過した。その日以来、爲政者は國民よ

り幸福を奪取し、國土は混亂と憎しみの舞臺になつて仕舞つた。(中略) 一九一四年ドイツ國民は何等利己心からでなく祖國の自由と存在とを擁護せんとの念願から戦争に参加したが、一九一八年十一月以來我々の遭遇した運命は、國運の衰退のみであつた。

その時以來、他の諸國においてもドイツに劣らざる危機の襲來をうけてゐる。

過去において尊重された權力の均衡、國家間の聯絡の必要の理解は、總ての經濟的幸福と共に失はれて仕舞つた。(中略)

我が國の惨たる状態は就中激甚を極めてゐる。失業と飢へに苦しむ數百萬の工業プロレタリアートをはじめ、あらゆる部門に亘る中小企業家および手工工業家階級は没落しつつある。これが、更に農民階級にまで及ぶ時、人類文化と文明との二千年に亘る貴重な遺産は網滅し、我がドイツは恐慌すべきカタストロフに向ふことになるのだ。

既に我が國はこのカタストロフへと向つてゐる。(中略) このドイツ國民の存立とぞの將來に對する最も憂ふべき時、我々(ナチス)は、戦線に起てる場合の如く、國家救済の爲に團結と至誠とをもつて戦ふべくかの世界大戰當時の老將軍(註 ヒットラーに

組閣の命を降した大統領ヒンデンブルグ將軍のこと」の招きに應じた。畏救すべき大統領は此の重大な意義の下に我々と團結の握手を交した。我々は神と良心と國民とに誓約する。國家の眞の指導者として國民政府に與へられた使命をば敢然として遂行すること
を。」

この聲明についで、第一に「ドイツ國民團結せよ」と叫んで云ふ。

「國民政府は國民の團結の恢復を以つて最高の、最初の使命とし、また國民力の發揚の基礎を擁護する。(中略) 政府は一切の階級を超越して國民の團結を圖り、それより生れる義務の自覺を促す。我が國の偉大なる過去に對する尊敬と、歴史ある傳統の誇りとを青年の教育の基礎としたい。政府は、政治・思想および文化の破壊に對して頑強な闘争を宣言する。ドイツは永久に無政府主義的共產主義の手より守られねばならぬ。」

そして、その第二において「四ケ年計畫の骨子が何であるか」と説く。

「國民政府は我が國の經濟復興の大事業を次の如き四ケ年計畫によつて解決せんとする。

▽國民の維持と扶養とを目的とする農民の救済。

▽失業に對する強制的・總括的干涉による勞働者の救済。

▽十一月革命以來、十四年間にドイツの農民は没落に惹き込まれた。

▽十四年間に失業群は増大された。國民政府は鐵のやうな意志と不撓不屈の精神とを持して次の計劃の實現を期す。

▽四ヶ年間にドイツ農民をその窺乏から救ひ、四ヶ年間に失業をば徹底的に克服せねばならない。そして、このことは他の一切の經濟復興の前提である。國民政府は此の經濟復興の使命と共に、國家および地方團體の行政並に財政的改革の實行を期す。それ故に最も確固たる國家的聯路を要求す。然してこの計畫の核心をなすものは

勞働義務の觀念および移住政策である。食糧問題の解決は、疾病者、老年者救済の社會的義務遂行の前提である。行政費の節減、勞働の促進、農民の支持、個人の機能の發揮とを期し、且つ我が國貨幣制度を維持しなければならない。」

そして最後に「國際的平和を要求」してこの四ヶ年計畫の聲明を了つてゐる。即ち

「國民政府は外交政策手段によつて、我が國民の生活權擁護並に自由の恢復を期す。政府はドイツを混亂狀態から救ひ、他國との提携を圖り、同時に平等なる價値と平等なる權利とを主張する。政府はこの自由と平等權とを具備した國民によつて、世界平和の維持と促進の義務遂行を期してゐる。政府は、ヨオロッパ、否世界の福祉のために盡さんとするの正當なる願望が、他國に於いて理解さるゝ様切望するものである。(中略)」
政府は十四年間没落に瀕せる國民を救済せんとする。政府は十四年間の害惡を四ケ年間にして一掃することを期してゐる。

ドイツ國民よ！ 我々に四ケ年の歲月を與へよ。しかる後に我々を批判し我々を裁斷せよ。

我々は元帥の命を忠實に遂行せんとしてゐる。全智全能の神よ！ 我々の任務をば御恵の下に置き成々の意志を守護し、我々の決意を祝福し給ひ、それに依り我が國民の信望を得せしめんことを希ふ。我々は覺悟してゐる。我々が身命を賭してドイツの爲めに闘ふことを。

D 一九三三年以後のナチス

ヒットラーの政權掌握以來、ドイツは、世界大戰による國際的屈辱からの解放と、自國內に於ける危機からの脱出の爲めに積極的な努力をつとけつゝ、今やソヴェートの國際的進出發展とは對蹠的に、世界の視聽を集注してゐる。そしてナチスの國內的・對外的政策は、最も雄辯にナチス・イデオロギーを表明してゐる。今、それら諸政策・諸綱領に就いて主なるものを揚げてみる。

(イ) 文化に關する政策

いかなる國家と雖も、文化に就いて最も頭腦を傷めるやうである。高度な理想を抱く國家であるとするれば、特に文化政策は、重要な國策となつてくるのである。ナチス・ドイツの文化政策が、極めて積極的な方法によつて行はれてゐるのは怪しむに足りないことだらう。そして、このナチス文化政策の主腦部をなすものは、かのゲベルス宣傳相である。

彼は。一九三三年九月「國文化院法令」なるものを制定して、ナチス・ドイツの文化は強力な統制を附與した。その中の主要な條項を左に摘記する。

第一條 國民啓蒙宣傳大臣ハ同省管轄ニ屬スル各職業ニ從事スル者ヲ公法上ノ團體ニ加入セシメ、之ヲ統一スル委任ヲ受ケ、又之ガ權能ヲ有スルモノトス。

第二條 第一條ニ準據シテ左ノ會議所ヲ設定ス

- 1、全國著作會議所
- 2、全國新聞會議所
- 3、全國ラヂオ會議所
- 4、全國演劇會議所
- 5、全國音樂會議所
- 6、全國美術會議所

第三條 一九三三年七月十四日附法律ニ依リ設立セラレタル全國映畫會議所モ亦之ヲ適用ス

第五條 第二條記載ノ各團體ハ全國映畫會議所ト俱ニ國立文化院ヲ形成スルモノトス。全

國文化院ハ國民啓蒙宣傳大臣ノ轄ヲ受ケベルリンニ本部ヲ設置ス。

この「國立文化院法令」によつて、ナチスの文化政策を端的に知ることができよう。

(ロ) 勞働に關する政策

ヒットラーは、その最初から中小商工業者の生活確立と共に、勞働者の生活擁護と、勞働の神聖を説いた。然し乍ら、ナチス以前に於けるドイツ勞働組合は、その殆んど全部が左翼の立場を採つてゐた爲めヒットラーはその統制化について苦しんできた。

「ドイツ勞働戦線」に關する法案が實施されたのも實にこの勞資協力の精神によつて、ドイツを共產主義から逃れさせる爲めに外ならない。即ち、それは勞働者の完全なるナチス化を強行しやうとするのである。

一九三三年十二月「黨國家歸一に關する法律」の定むるところによつてドイツ勞働戦線はナチスの一團體として取扱はれ、指導及び組織に就いてもナチスの指導に俟つといふことに

なつたが、このドイツ労働戦線の本質と目的を適確に表現してゐるのは、その第一條及び第二條である。即ち

第一條 ドイツ労働戦線ハ並ニ精神肉體ノ労働ニ従事スルドイツノ結合ニシテ特ニ舊労働組合、舊被使用人組合及び舊企業家組合ノ所屬員ハ總テ之ニ所屬シ、各自同等ナル權利ヲ受ク。 ドイツ労働戦線所屬員ノ身分ハ聯業上、社會上、經濟上ソノ他ヲ地位ノ如何ニヨリ異ルコトナシ。 首相ハ法律上認メラレタル諸團體ガ總テ労働戦線ニ加盟スベキコトヲ規定シ得ルモノトス。

第二條 ドイツ労働戦線ハ全ドイツ人ノ眞ノ國民的勤勞協同體ノ形成ヲ以テソノ目的トス ドイツ労働戦線ハ國民各自ヲシテソノ精神力並ニ體力ニ應ジテ國民經濟生活ニ於テ各々ソノ所ヲ得セシメ最高ノ能力ヲ發揮セシメ、且、國民協同體ノ爲メ最大ノ利益ヲ得セシムルコトヲ要ス。

面して、このドイツ労働戦線の指導は、ナチスの全國組織の指導官 (Reichsorganisationsleiter der NSDAP) — これは一九三四年一〇月に改稱されたもの) によつて行はれる。現在このド

イツ労働戦線の所屬員は二百萬を超へると謂はれてゐる。そしてこれぞ、ナチスの精神たる「公益は秋益に優先す」の實踐である。ヒットラーはこれを「ドイツの大黒柱」と呼んでゐる。

然し乍ら、ナチス・ドイツに於ける一切の労働問題に解決の鍵として臨んでゐるものは一九三四年一月公布の「國民的労働規制の爲めの法律」であらう。この法律を基礎としてドイツにおける労働生活の將來が約束されてゐると謂はれてゐる。即ち、この中に、ナチス労働生活を支配するところの大きな根本的思想が顯示されてゐるのである。

第一條 經營上ニ於テハ金業者ハ經營ノ指導者トシテ被使用人並ニ労働者ハソノ従業員トシテ、協同シ、以テ經營ノ目的ノ促進及民族ト國家トノ共同福祉ノ爲メニ勤勞スルモノトス。

第二條 經營ノ指導者ハ従業員ニ對シ、此ノ法律ノ規定スル經營上ノ事件ノ總テヲ處理ス指導者ハ従業員ノ福祉ヲ圖ルベシ従業員ハ指導者ニ對シ經營共存體ニ於テ確立セラルル忠議ヲ保持スベシ

この法文に示されてゐる如く、こゝでも「私益よりも先づ公益を」の精神が波打つてゐる。經營者は私腹を肥すことが禁じられある。被使用者・労働者には責任ある協同的勤務を要求してある。

ナチスはまた經濟上の弱者に對して保護すべきことを重要視する。一九三五年五月制定の「家内労働法」がその一つの表れである。この法規においては、先づ第一に家内労働者のために、その生存の最少限度の條件を補障するを以つて目的としてゐる。然して、此の法律の實施機關の一つとして産業監督所があり、これは經營上の保護と健康上の保護とをその任務としてゐる。惡意をもつて貧困を家内労働者を搾取する資本家に對しては「家内労働法」はその經營の禁止を命ずることができる。

かくの如く、ナチスは企業者と勤勞者・資本家と労働者の關係を、民族的・國家的福祉の立場から協同體としての密接な結合へと導かうとしてゐる。

然しまた一方においては、國民に勞働の神聖と悦びとを自覺せしめ、勞働に對して「愉しき訓練」を與へるために滿十八歳から滿二十五歳に及ぶ青年に勞働奉仕の義務が負はされて

ある。即ち、これを規定するものは「労働奉仕法」である。今その中から主要な條項を摘記して労働奉仕の何物たるかを知らう。

第一條

労働奉仕ハドイツ國民ニ對スル名譽アル奉仕ナリ。男女ノ如何ヲ問ハス、ドイツ青年タルモノハ總テ、労働奉仕ヲ以テドイツ國民ニ奉仕スルノ義務ヲ有ス。

労働奉仕ハドイツ青年ヲ國家社會主義ノ精神ニ遵ヒ、民族共存體、労働ニ對スル正當ナル見解、殊ニ肉體労働ニ對スル正シキ尊敬ノ念ヘノ教導ヲナスベキモノトス。

第二條

労働奉仕ハ内務大臣之ヲ監督ス。内務大臣ノ下ニ於テ労働指導者ハ労働奉仕ニ對シ命令權ヲ行使ス。労働指導者ヲ労働奉仕ノ中央部長トス。労働指導者ハ組織ヲ定メ、労働ノ實施ヲ決定シ、養成ト教育ヲ指導ス

この労働奉仕に青年ナチス黨員が参加する場合には、黨及び其支部の爲めに活動をなすことを得ずと規定されてゐる。これは、労働奉仕の意圖せる労働訓練を他に妨げられぬためと思はれる。然して、その法規の嚴格なることは、その十五條において「労働奉仕参加員ハ勞

「勤奉仕服務懲戒規定ノ適用ヲ受ク」と明記されてゐる通り、厳しい罰則が設られてある。一九三六年度に於ける勤奉仕義務者は二十數萬とされ、その構成は、中央指導部、勤奉仕部、勤奉仕團、勤奉仕班、勤奉仕分隊に區分されてゐる。

以上、數種の勤奉仕法律によつてヒットラー及びナチスの勤奉仕策を窺ふことができるであらう。最近——一九三七年五月一日——ヒットラーはオリムピツク・スタヂアムに於いて青年男女十二萬人に向つて「生産擴充強化」を叫んだ。

「ドイツ國民は他國民とは比較にならぬ國難に直面しつゝ共同の目標と死活を制する重大な利害のため決然と邁進してゐるのだ。ドイツ國民は自然より冷遇されゐるが、しかも必要不可欠なものを獲得するためには猫額大の狹隘な地域に營々として努力してゐる。資源の缺乏を克服するためには最大の努力、最高の寄與を必要とする。それには他國と有無相通する外、どし／＼國內の新發明を盛にしなければならない。ナチス經濟の鍵は生産を増加するにある……」

この「ナチス經濟の鍵は生産を増加するにある」といふところに、一切の勤奉仕制定の意

義があると謂はねばならぬ。

(ハ) 民族に關する政策

民族問題においてナチスは最も極端に潔癖性を示してゐるが、就中、ユダヤ人排撃は有名な事實である。一九三五年九月十五日附公布の「ドイツ人の血統と名譽とを保護するための法律」は完全にユダヤ人を血液的にも追放して仕舞つたといふべきである。然かも、この法律には、異常に興奮した前書が附されてある。他の法文には餘り例のないことだけに今日のナチス・ドイツが、如何にユダヤ人に對して憎惡を抱くかを知ることができる。即ちその前書及び法の一二を摘記すれば

ドイツ人ノ血統ノ純潔性ハドイツ國民ノ存続上ノ前提的條件タル事ヲ徹底的ニ認識シ且ツドイツ國ヲ永遠ニ安泰ナラシメントスル不屈ノ意志ニ感激シテ、ライヒスタークハ滿場一致ヲ以テ次ノ法律ヲ議決シ茲ニ之ヲ公布ス

第一條 ユダヤ人トドイツ人又ハ同種ノ血統ニ屬スルドイツ市民トノ結婚ヲ禁ズ

第三條

ユダヤ人トドイツ人又ハ同種ノ血統ニ屬スル四十五歳以下ノ女子ドイツ市民テ家
政上ノ目的ヲ以テ使傭スルコトヲ得ズ

但しこの第三條は一九三六年から實施されてゐる筈であるが、これはユダヤ系女子によつて私生兒の出産することをさへ嫌惡するためであつて、我々の想像できぬ位「ドイツ人の血統の純潔性」のために神経質になつてゐることがわかる。然し乍ら、戀愛には民族國家を超絶するものがある。ナチスの意圖するところのものが、どの程度まで成功をなすか。これは興味ある問題だ。

E ナチス外交政策

(イ) ヴェサルイユ條約廢棄通告と

ザール地方のドイツ復歸

ナチスハその綱領二十五ヶ條の中に於いてヴェルサイユ條約からの解放を強調してゐるが

一九三五年ヒットラーの横車は遂にヴェルサイユ條約廢棄通告となつて國際聯盟を驚かせた
そして、この年、一方には十五ヶ年間國際聯盟の管理下にあつたザール地方を人民投票によ
つて復歸せしめた。それは

ドイツ復歸賛成

四七六・〇八九票

フランス合併賛成

二・〇八三票

現 狀 維 持

四六・六一三票

といふ結果でドイツ復歸は壓倒的優勢を示し同年三月一日國際聯盟理事會は遂にザールのド
イツ復歸を發表するに至つた。

(ロ) ラインランド占據

ドイツ今日の疲弊は、世界大戰における大敗と、その後に課せられた國際的制裁の重荷に
原因する故に、今日のドイツを眞に強固ならしめるためには、國際的制裁の重壓を打破し、
戦前のドイツの權利を獲得することが急務であるとヒットラーは常に主張する。そしてナチ

ス外交政策を總てこれを建前として行はれてゐる。然かもその一つ一つが事實となつて世界の眼を驚かせつゝあるのだ。

ラインランドは大戦後、非武装地帯として防備兵數の制限が加へられてゐたが、然し、常に制限を超過する防備兵（しかも、いつでも正規兵に變り得る）が駐屯して、フランスとの間に問題の種となつてゐたが、一九三六年三月、ドイツ兵は續々ラインランドに侵入これを占據して仕舞つた。そしてラインランドを事實上の武装地帯とし、同時にヒットラーはロカルノ條約ノ廢棄を通告した。而して、同月二十九日ヒットラーは、ロカルノ條約廢棄とライン進出問題に就いて民意を問ふべく國民投票を行つたが、その結果は有權者四五、四〇八、一九一名の中、九八・五％といふ驚異的投票があり、絶對數を以つ賛意を表した。

（ハ） ダンチツヒ獨立

次いで、ヒットラーは、ダンチツヒをドイツより引離して、東プロシヤとの間にポーランド・コリドアを設けたのは不自然極まることである、ドイツはこの屈辱より脱すべしと叫び

ダンチツヒ獨立問題は重大視されてゐたが、一九三六年六月ドイツ巡洋艦ライプチツヒ號のダンチツヒ入港と共に俄然表面化するに至つた。

かく、ドイツの強腰といふよりも暴力行爲的進出が、弱氣の世界國を震撼せしめつゝある事實は、一方においてドイツ國內の強化を意味してゐる。又、現下のドイツが、世界に向つて大戦前のドイツの權利を要求して熄まないのは、國家の膨脹が必然的にさうさせるのであらう。そこにナチスドイツの發展があると謂へよう。

結語

ヒットラーと青年に就いて

われわれは既に以上述べたところに依つて、ヒットラーを盟主とするナチスの全貌を知つたと謂へるだらう。鉤十字の旗の下に、祖國を護らうとする鐵のやうな意志は、果して、ヨオロッパに於けるドイツの地位を確保せしめるだらうか。

「國家社會主義者として、我々はその旗印に綱領を示す。赤はその社會觀を、白は國家

社會主義を、そして鉤十字はアフリカのための闘争の任務を！」

それは寔に輝かしい宣言ではある。

我々は、ヒットラー自身への希望と共に、ヒットラー背後に於ける「青年」の力に希待を有つ。若しも、ドイツの青年達が偉大な民族の意志を忘却せず、またヒットラーのよき部分の意圖を繼承し、その缺點に修正を加へて「前進」するならば、歴史はこの若きドイツ魂の功績を稱へるであらう。

然しその希望もドイツ青年の意志に俟たねばならない。

今日、ドイツには三百萬の團員を有するヒットラー青年團がある。ヒットラー青年團は一九二六年にその淵源を置き同三一年バルウドル・フォン・シーラツハによつて全ドイツ國內の青年團をナチスの下に統轄すべき計畫に着手、同三年遂に信仰と階級を超越せる全ドイツ青年團が成立し、これがヒットラー青年團と總稱されることになつた。その組織と指導はバルウドル・フォン・シーラツハに委ねられ、その構成は

(總稱)

ヒットラー青年團

ヒットラー青年團十四歳から十八歳迄

ドイツ少年團十歳から十四歳迄

ドイツ女子青年團十歳から二十一歳迄

であつて、將來のナチス・ドイツを背負つて立つべき青年が訓練されてゐるのだ。

さらに、この青年團を経過したもの、中には「嵐の分隊」や「ヒットラー親衛隊」に編入されるものが多い。澎湃たる青年の力が、ヒットラーの下に結集して、視國ドイツを苦悶から救ひ出さうとしてゐるのだ。

青年は勝利する——この明朗な信念に據る相言葉とハーゲンクロイツの旗印の行進を思ふ時、強い昂奮が湧く。

「薔色の軍隊のために道を開ける！」と「嵐の分隊」は叫ぶ。だが、その意味が「眞理と正義のために道を拓け——といふことに通じることが必要だ。

今日の世界を脅やかすが如くに立つ、ヒットラー、ムッソリーニ、その存在と動向は、我に深い興味を覚えさせる。

最後に——ヒットラー及びナチスのために、そして、ドイツの果敢な青年のために、ハーゲンクロイツの輝かしい健闘を祈らう。(了)

ナチス政策綱領

定價二十錢 (送料三錢)

昭和十二年六月一日印刷
昭和十二年六月五日發行

著作人

千 德 岩 雄

東京市日本橋區吳服橋二丁目三

不許
複製

印刷所

白石製本印刷所

東京市小石川區西青柳町十二

發行所

東京市日本橋區
吳服橋二丁目三

健康日本社

電話日本橋(24)一六〇四番
振替東京八〇一四二番

150

